

平成25年3月期 決算説明会



目次

I. 会社概要及び今期のトピックス

II. 平成25年3月期 決算概要

III. 平成26年3月期 業績予想

IV. 経営計画・事業戦略

株式会社関門海 会社概要

社 名	株式会社 関門海 KANMONKAI Co.,Ltd.
設 立	平成元年 5月
代 表 者	代表取締役社長 田中 正
本 社	大阪市西区北堀江2-3-3
子 会 社	株式会社 関門福楽館 株式会社 だいもん 株式会社 富士水産(※) (※)事業活動休止中
資 本 金	5億9,689万円 (平成25年3月末日現在)
上 場	東証マザーズ (コード番号:3372)
事業内容	とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」の 運営及びFC展開等
従 業 員	138名(連結:161名)

【店舗数状況】H25.3.31時点

■玄品ふぐ(85店舗)

関西地区:31店舗

関東地区:50店舗

その他地区:4店舗

■以蟹茂、ふぐ・かに専門 玄品

関西地区:1店舗

関東地区:5店舗



■すし兵衛:5店舗

■その他業態:7店舗

■壇之浦パーキングエリア

経営方針

創業者理念

- 「食で世の中を変える、幸せにする、明るい未来実現に貢献する」

経営者理念

- 「真に食を愛する者が関門海という集団を形成し、社会に貢献する」

基本方針

- 「情熱をもったビジョナリーカンパニーとなる」

中期経営戦略

- 主力事業である「玄品ふぐ」事業への本業回帰及び事業基盤の再構築
- 収益性と成長性の高い事業分野へ経営資源の集中並びに不採算事業からの撤退

トピックス

5月

- ・ 第三者割当増資による新株式発行(総額約5億円)／筆頭株主の異動

6月

- ・ 新メルマガ会員システム「fu:good!」の開始

7月

- ・ 夏メニュー(焼きふぐ・新ドリンク・単品商品等)の本格販売開始

8月

- ・ サッポロビール株式会社との資本提携を解消(業務提携は継続)
- ・ 日本唐揚協会認定の「からあげグランプリ」で金賞を受賞

9月

- ・ 筆頭株主の異動(創業家一族への株式移動)

10月

- ・ 取締役および監査役の辞任
- ・ グランドメニューのリニューアル

11月

- ・ 宅配サイトのリニューアル、小僧寿しでの宅配販売開始

2月

- ・ 【期間限定】天然とらふぐと熟成とらふぐの食べ比べコースを開始
- ・ ふぐの日フェアの実施(てっさ980円→29円)

3月

- ・ てっちり半額フェアの実施(てっちり1980円→990円)
- ・ 「継続企業の前提に関する重要事象等」の記載解消

対処すべき課題の進捗状況

主力業態である
「玄品ふぐ」の業態
競争力向上

不採算店舗・事業
の収益改善

債務超過の解消、
「継続企業の前提に
関する重要事象等」
の記載解消

財務体質の改善

- ・経営資源の集中
- ・店舗オペレーション
向上プロジェクト開始
- ・新商品の開発
- ・販売促進活動の見直し
- ・仕入先との関係強化

業態競争力の向上、
収益基盤の
確立を図る

- ・各店舗の特性を的確
に捉えた施策
- ・収益改善が見込めない
店舗や事業の売却
もしくは撤退

高い売上高営業
利益率の回復を
図る

- ・事業計画の抜本的な
見直し
- ・第三者割当増資
- ・金融機関との関係強化

債務超過の解消、
「継続企業の前提に
関する重要事象等」
の記載解消

- ・在庫の圧縮による営業
CFの確保
- ・本部コストの効率的な
使用の徹底
- ・資産の売却

原点回帰の事業
方針のもと財務体
質の改善を図る

I. 会社概要及び今期のトピックス

II. 平成25年3月期 決算概要

III. 平成26年3月期 業績予想

IV. 経営計画・事業戦略

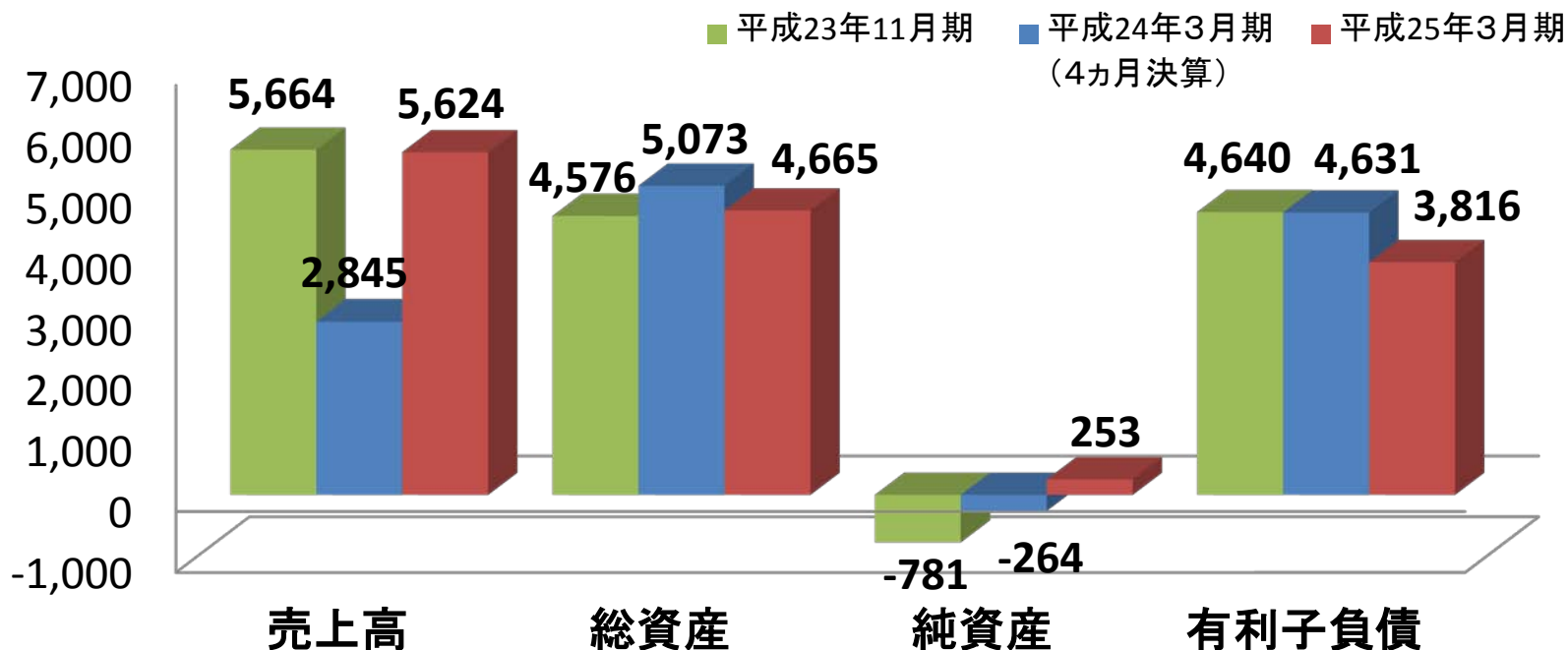
決算概要

平成25年3月期決算の概要

既存店売上高
前年同期比104.7%

債務超過解消
純資産253百万円

有利子負債
前期比△815百万円



※平成23年11月期の売上高には総菜宅配事業は含めておりません。

業績修正

(単位:百万円)

	H25年3月期 連結実績	H25年3月期 当初予想	増減額	H25年3月期 個別実績
売上高	5,624	5,500	124	4,573
営業利益	87	150	△63	119
経常利益	57	70	△13	65
当期純利益	15	50	△35	8

◆修正の理由

売上高

・主力事業である「玄品ふぐ」の売上高が、計画を上回るペースで推移。

営業利益

- ・販売促進活動の強化、人員体制の強化によるコストの増加。
- ・連結子会社である株式会社だいもんにおいて、大幅な営業損失の計上。(△55百万円)
- ・連結子会社である株式会社関門福楽館が、計画を下回るペースで推移。

経常利益

・営業外損益として、受取和解金93百万円、増資関連費用54百万円の計上。

当期純利益

・特別損失として、店舗閉鎖損失64百万円の計上。

連結損益計算書

(単位: 百万円)

	H25年3月期		H24年3月期 (12月～3月の4ヵ月)		H23年11月期	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上高	5,624	100.0%	2,845	100.0%	7,231	100.0%
売上原価	1,939	34.5%	940	33.0%	2,803	38.8%
売上総利益	3,684	65.5%	1,905	67.0%	4,428	61.2%
販売費及び 一般管理費	3,597	64.0%	1,360	47.8%	4,372	60.5%
営業利益	87	1.5%	544	19.1%	56	0.8%
営業外収益	133	2.4%	46	1.6%	34	0.5%
営業外費用	163	2.9%	46	1.6%	139	1.9%
経常利益	57	1.0%	544	19.1%	△48	△0.7%
特別利益	34	0.6%	15	0.5%	115	1.6%
特別損失	78	1.4%	72	2.5%	680	9.4%
税金等調整前 当期純利益	13	0.2%	487	17.1%	△613	△8.5%
法人税等	△2	0.0%	2	0.1%	162	2.2%
当期純利益	15	0.3%	484	17.0%	△775	△10.7%

◆直営既存店舗売上高(玄品ふぐ)
→前年同期比104.7%と改善

◆原価率 34.5%
→H23.11期は、原価率の高い
(株)トドックが含まれているため
→H24.3期は、粗利率の高い
玄品ふぐ事業の割合が大きいため

◆販売管理費率 64.0%
→H24.3期は、繁忙期のみの4ヵ月
決算であったが、H25.3期は閑散
期の固定費負担の影響
→連結子会社の(株)だいもんにおける
売上減少による影響

◆営業外損益
・受取和解金 93百万円
・増資関連費用 54百万円

◆特別損益
・店舗閉鎖損失 64百万円

◆当期純利益 15百万円
・法人税等調整額 △43百万円

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	H25年3月期		H24年3月期 (12月～3月の4ヵ月)		増減
	金額	比率	金額	比率	
流動資産合計	2,810	60.2%	2,768	54.6%	42
現金及び預金	1,249	26.7%	1,291	25.5%	△42
たな卸資産	1,105	23.7%	1,162	22.9%	△57
その他	455	9.8%	313	6.2%	142
固定資産合計	1,855	39.8%	2,304	45.4%	△449
資産合計	4,665	100.0%	5,073	100.0%	△408
流動負債合計	4,208	90.2%	4,423	87.2%	△214
固定負債合計	203	4.4%	914	18.0%	△711
負債合計	4,412	94.6%	5,337	105.2%	△925
純資産合計	253	5.4%	△264	△5.2%	517
負債・純資産合計	4,665	100.0%	5,073	100.0%	△408
有利子負債	3,816	—	4,631	—	△815

【資産】

◆資産合計 4,665百万円

(要因)

- ・たな卸資産の減少 57百万円
- ・未収消費税等の増加 58百万円
- ・有形固定資産の減少 428百万円
→八尾商品センター(賃貸物件)の売却

【負債】

◆負債合計 4,412百万円

(要因)

- ・借入金の返済 815百万円

【純資産】

◆純資産合計 253百万円

(要因)

- ・利益剰余金の増加 15百万円
→当期純利益の計上
- ・資本金等の増加 500百万円
→第三者割当増資(H24.5.31)

債務超過の解消

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	H25年 3月期	H24年 3月期 (12月～3月の4ヵ月)	H23年 11月期
	金額	金額	金額
営業活動による キャッシュ・フロー	32	817	49
投資活動による キャッシュ・フロー	261	78	443
財務活動による キャッシュ・フロー	△335	24	△874
現金及び現金 同等物の増減額	△42	920	△381
現金及び現金 同等物の期首残高	1,291	371	752
現金及び現金 同等物の期末残高	1,249	1,291	371

【営業活動によるキャッシュ・フロー】

- ・未払消費税等の減少額 △65百万円
- ・未収消費税等の増加額 △58百万円
- ・減価償却費 153百万円
- ・たな卸資産の減少額 57百万円

【投資活動によるキャッシュ・フロー】

- ・有形固定資産の取得 58百万円
- ・有形固定資産の売却 345百万円

【財務活動によるキャッシュ・フロー】

- ・株式の発行による収入 483百万円
- ・長期借入金の返済 639百万円
- ・短期借入金の純減額 175百万円

(補足資料1) 関門海単体

(単位: 百万円)

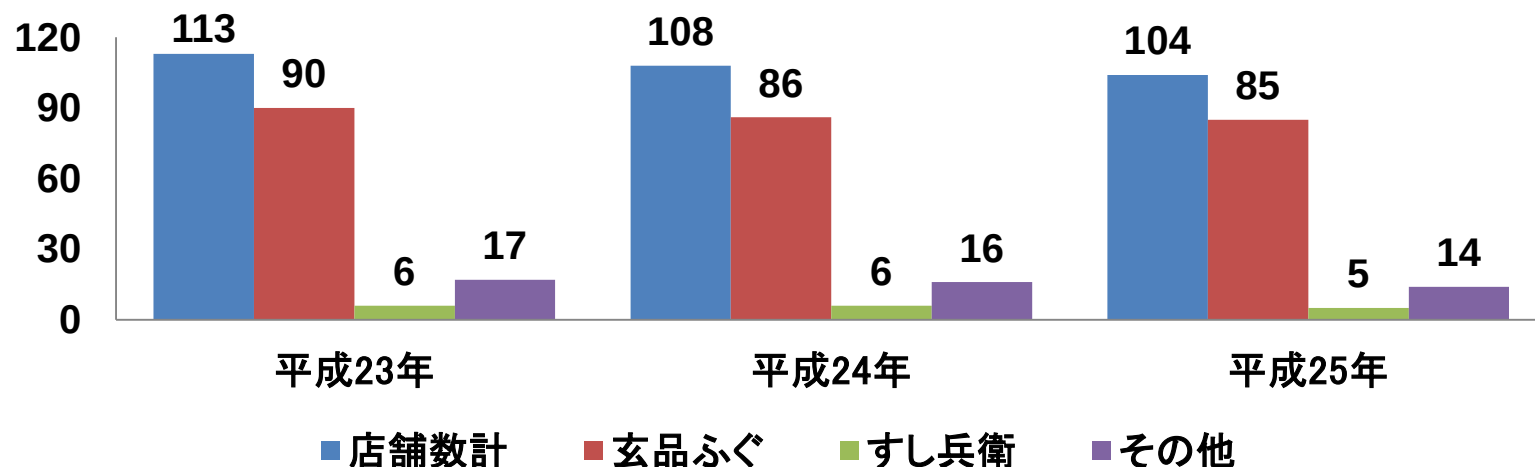
店舗形態		記号	前年同期	平成25年 3月期	対前年差額
平成24年3月末	平成25年3月末				
玄品ふぐ直営	玄品ふぐ直営	A	2,862	2,997	135
玄品ふぐFC	玄品ふぐ直営	B	0	0	0
その他直営	玄品ふぐ直営	C	19	41	22
平成25年3月末時点での玄品ふぐ直営店合計		D	2,882	3,039	157
玄品ふぐFC	玄品ふぐFC	E	589	598	9
玄品ふぐ直営	玄品ふぐFC	F	77	46	△31
H25.3末時点での玄品ふぐFC合計		G	666	645	△21
直営	直営	H	651	636	△15
FC	FC	I	19	17	△2
平成25年3月末時点での特殊業態店舗合計		J	670	653	△17
その他(本部計上・閉店済店舗等)		K	262	235	△27
その他合計		L	262	235	△27
合計		M	4,482	4,573	91
既存店舗合計(D+G+J)		N	4,218	4,338	120
既存玄品ふぐ合計(A+B+E+F)		O	3,528	3,641	113
既存直営店舗合計(A+C+H)		P	3,532	3,674	142
既存FC店舗合計(E+I)		Q	608	615	7

(補足資料2) 店舗推移

(単位: 百万円)

・店舗状況

今期も新規出店は行わず、収益改善の見込めない店舗については、業態変更等により、高利益率店舗への回復を目指します。



店舗名	業態変更内容
黒門富士水産	「玄品ふぐ 大阪黒門の関」としてオープン →販売店舗部分を縮小し、飲食部分を増加
以蟹茂南越谷	「ふぐ・かに玄品 南越谷店」としてオープン →ふぐと蟹を提供できる店舗へ業態転換
ふぐ田町・トロバカ	「ふぐ・かに玄品 田町店」としてオープン →ふぐと蟹を提供できる店舗へ業態転換

【閉店店舗】

・玄品ふぐ 2店舗
(六甲道、上福岡)
平成25年4月末閉店

I. 会社概要及び今期のトピックス

II. 平成25年3月 決算概要

III. 平成26年3月期 業績計画

IV. 経営計画・事業戦略

業績計画

(単位: 百万円)

	H25年3月期 実績		H26年3月期 上期計画		H26年3月期 下期計画		H26年3月期 通期計画	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上高	5,624	100%	1,930	100%	3,720	100%	5,650	100%
売上原価	1,939	34.5%	695	36.0%	1,315	35.3%	2,010	35.6%
売上総利益	3,684	65.5%	1,235	64.0%	2,405	64.7%	3,640	64.4%
販売費及び 一般管理費	3,597	64.0%	1,610	83.4%	1,890	50.8%	3,500	62.0%
営業損益	87	1.5%	△375	△19.4%	515	13.8%	140	2.5%
経常損益	57	1.0%	△410	△21.2%	485	13.0%	75	1.3%
当期純損益	15	0.3%	△270	△14.0%	290	7.8%	20	0.4%
純資産	253	—	△17	—	273	—	—	—

◆原価率 34.5% → 35.6% ふぐの仕入単価の上昇によるもの

◆販売管理費率 64.0% → 62.0% 本部コストの見直しによるコストコントロールによるもの

I. 会社概要及び今期のトピックス

II. 平成25年3月期 決算概要

III. 平成26年3月期 業績計画

IV. 経営計画・事業戦略

戦略の方向性

選択と集中によりコア事業である
ふぐ事業に原点回帰

営業戦略

- 不採算事業からの撤退、収益性と成長性の高い事業分野へ経営資源を集中
- 「玄品ふぐ」事業への本業回帰
- 販売促進活動の見直しによる業態競争力の向上

- わかりやすい経営方針の設定と周知
- 役割の明確化

経営陣の責任明確化
経営陣・従業員の一体感

経営体制 組織体制

- システム開発投資
- 店舗改装
- 人材育成投資

- 自己資本の充実
- 不要資産売却・コスト削減
- 債務返済リスケジューリング

財務戦略

財務基盤の充実
キャッシュフロー確保

投資戦略

業務効率化と将来人材の育成

経営体制、組織体制

【テーマ】

◆25期 商品・技術、結束の関門海

→ 経営理念の達成に向け関門海全員が結束し、かつ、商品力、調達力、オペレーション力、販売力の向上を行う。

◆26期 組織・仕組みの関門海

→ 関門海の強みを十分に活かした事業活動を行い、かつ、経営理念を共有し、経営目標を明確にし、人が育つ環境・組織を整備する。

◆27期 人の関門海

→ 関門海全員が魅力的な人材となり、それぞれの満足度が向上し、お互いを尊重することにより、他社との圧倒的な優位性を持つ。

【遡及事項】

強み	調達力	物流力	技術力	商品力	オペレーション力	営業力	経営管理力	組織力
軸	安心 安全	正確 ローコスト	進歩 安全	満足度 サプライズ	シンプル クオリティ	リピート おもてなし	正確性 コンプライアンス	和 一体感
タスク	調達先をパートナーとして、安全な食材を安価で安定的に調達し、在庫を適正化する	店舗に信頼される正確な物流を、ローコストで実現する	技術力により、安全かつ、継続して進歩を遂げた商品を提供する	安定的で、かつ、感動を与えられる商品を提供し、全てのお客様に満足していただく	シンプルでクオリティの高いオペレーションを強みとして、多店舗展開を継続する	地域の特性を明確に捉え、オンラインワン店舗として常連客のリピートが絶えない店にする	状況を適時正確に捉え、法律を遵守しつつ、常に最適な判断を行える体制を作る	和をもって、方向性を一致させることによって、組織力により勝負する

営業戦略



《「焼福(やきふく)セット」》

夏場が繁忙期である「焼肉」をビジネスモデルとして、「ヘルシー」「コラーゲン」「選べる」をキーワードに、旨味たっぷり熟成とらふぐの特製タレを選べる楽しさ、単品ふぐ料理の充実を行いました。

→半額フェア等の実施により、客単価は500円程度下がったものの、フェアを実施した直営店舗では、昨年同期比で売上120%、客数130%を達成



《新ドリンクメニュー》

女性客をターゲットに、新たにドリンクメニューを大幅に変更しました。特に、とらふぐよりコラーゲンを抽出することに成功し、臭みを消した画期的な海洋性コラーゲンの「美容ドリンク」であるコラーゲンドリンクや、各種カクテルなど、幅広い女性の年齢層にご好評を頂いております。

→前年同期比で、ドリンクメニューの売上大幅増加



《夏のふぐコース「福すき焼きコース」》

平成25年6月に全国の玄品ふぐにて販売を開始

「軟骨入りとらふぐつみれ」と彩り野菜を、特製の甘辛割り下と美容卵のとりみで味わう新商品です。♫には、ふぐ身の入った贅沢な「ふぐ玉うどん」をご用意しております。

営業戦略

販売促進活動の見直し

- WEBプロモーションの強化
 1. ブランディング、CI
 2. ホームページ改修
 3. SEO
 4. 新規WEB媒体の活用
(WEB広告、リスティング広告等)
- データベースおよびメール配信システムの強化
「ユビカル」から「Synergy!360」への切り替え
 1. セキュリティ強化
 2. 「Synergy!360」を活用したマーケティング分析
 3. メールマガジンの配信結果分析の実施
- 販促施策の費用対効果のより良い改善
 1. 前期施策の見直し
 2. 施策の最適化によるコストダウン
 3. PDCAサイクルの強化

<データベースマーケティングの目的>

売上アップ・利益アップ

【1】新規会員獲得

→リピート化

【2】販促効果検証・ターゲティング

→費用対効果の高い販促の実施

前期においては、新規獲得を中心に販促施策の強化を図っていましたが、更なる売上・利益の向上のため、来店客のリピート化と、費用対効果の高い販促の実施のための分析を行ってまいります。



投資戦略

人材育成投資について

- 中長期的な人材育成を目的とした、「店舗オペレーション向上プロジェクト」を開始
 - ・接客マニュアルの策定、トレーニング・プログラムの実施
- 本部重視の経営戦略 ⇒ 現場重視の経営戦略へ
 - ・各経営陣が率先して現場を回り、経営理念・使命感の共有・浸透を図る
→ 経営理念を持った現場リーダーが育ち、更にはそれらのリーダーが現場スタッフを教育する形が出来つつあります。

店舗設備改装計画

- 玄品店舗において店舗改装を予定
 - ・お客様の来店しやすい、居心地のよい空間造り
 - ・従業員の働きやすい環境整備
- 物流センター(クリーンルーム)への設備投資
 - ・品質管理、衛生面の更なる向上



財務戦略

金融機関との債務返済リスケジュールと借入金の圧縮

- 取引金融機関との借入金返済リスケジュール
- 借入金の圧縮
- キャッシュ・フローの確保
- 不採算事業の売却及び資産売却による借入金の早期返済

<純資産と借入金の推移>

	H22.11	H23.11	H24.3	H25.3	H26.3見込
純資産合計	42	△781	△264	253	273
借入金残高	5,459	4,640	4,631	3,816	3,616
現預金残高	752	371	1,291	1,249	—

「本日はありがとうございました」

＜お問い合わせ先＞

株式会社 関門海

経営支援部

担当：田渕・阿部

TEL : 06-6578-0029 e-mail : ir@kanmonkai.co.jp

本資料に記載されている業績予想、計画等の過去の実績以外の記述については、当社の将来の見通しを示したものであり、現時点において入手可能な情報・見通し・判断に基づいて作成しております。実際の業績は、今後の様々な要因によって異なる可能性があることをご承知おきください。

記載された情報によって生じた損失等につきましては、当社は一切責任を負うものではありません。また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご利用者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。